

我が街の東海道

一六〇一年に東海道へ宿駅が設けられてからことしでちょうど四百年。これを記念し、県内各地で「東海道四〇〇年祭」が開催されています。現在の富士市の発展の背景には、東海道沿いという恵まれた立地条件がありました。

さまざまなイベントに参加して、歴史を運んだ東海道を知り、二十一世紀のあなたの夢を膨らめてみませんか。

歴史が往来した道・東海道

関ヶ原の戦いの後、徳川家康は、政治の拠点を江戸に置き、江戸と京都など各地を結ぶ街道の整備を行いました。

中でも江戸日本橋と京都三条大橋を結ぶ東海道は主要街道として西から東へ、東から西へさまざまな物や文化、また、歴史を動かす出来事が行き来しました。東海道の宿場数は全部で五十三。参勤交代の大名行列や旅人たちは、宿場以外では宿泊できなかつたため、宿場は大勢の人々にぎわいました。

吉原宿の成立と所がえ

吉原宿は、慶長六年（一六〇一年）に東海道の宿場として幕府から指定を受けました。江戸から数えて十四番目の宿場でした。宿駅として指定された当初の吉原宿は、吉原湊の渡船場付



東海道五拾三次之内 「吉原」(左富士) 歌川広重画 (市立博物館蔵)
宿場の移転とともに街道が北上したため、富士山が左側に見える名勝・左富士が生まれました。

富士市の旧東海道



●現在の柏原周辺
間宿「柏原」では、浮島沼でとれたウナギのかば焼きが名物になっていました。



入野多賀子さん作

近（現在の鈴川・今井地区）に設置されました（元吉原宿）。ところが海岸に近く、高潮や、強風により吹き寄せる砂の被害を受けたため、宿場を依田橋の西に移しました（中吉原宿）。

しかし、それでも高潮の被害は免れず、延宝八年（一六八〇年）の台風による高潮で人命や家屋などに莫大な被害を受けたため、再び移転し現在の吉原本町の位置で宿場として発達していききました（新吉原宿）。こうして宿場が移転することにより、道筋も変わり、人家の移動とともに多くの神社・寺院が移転を繰り返しました。

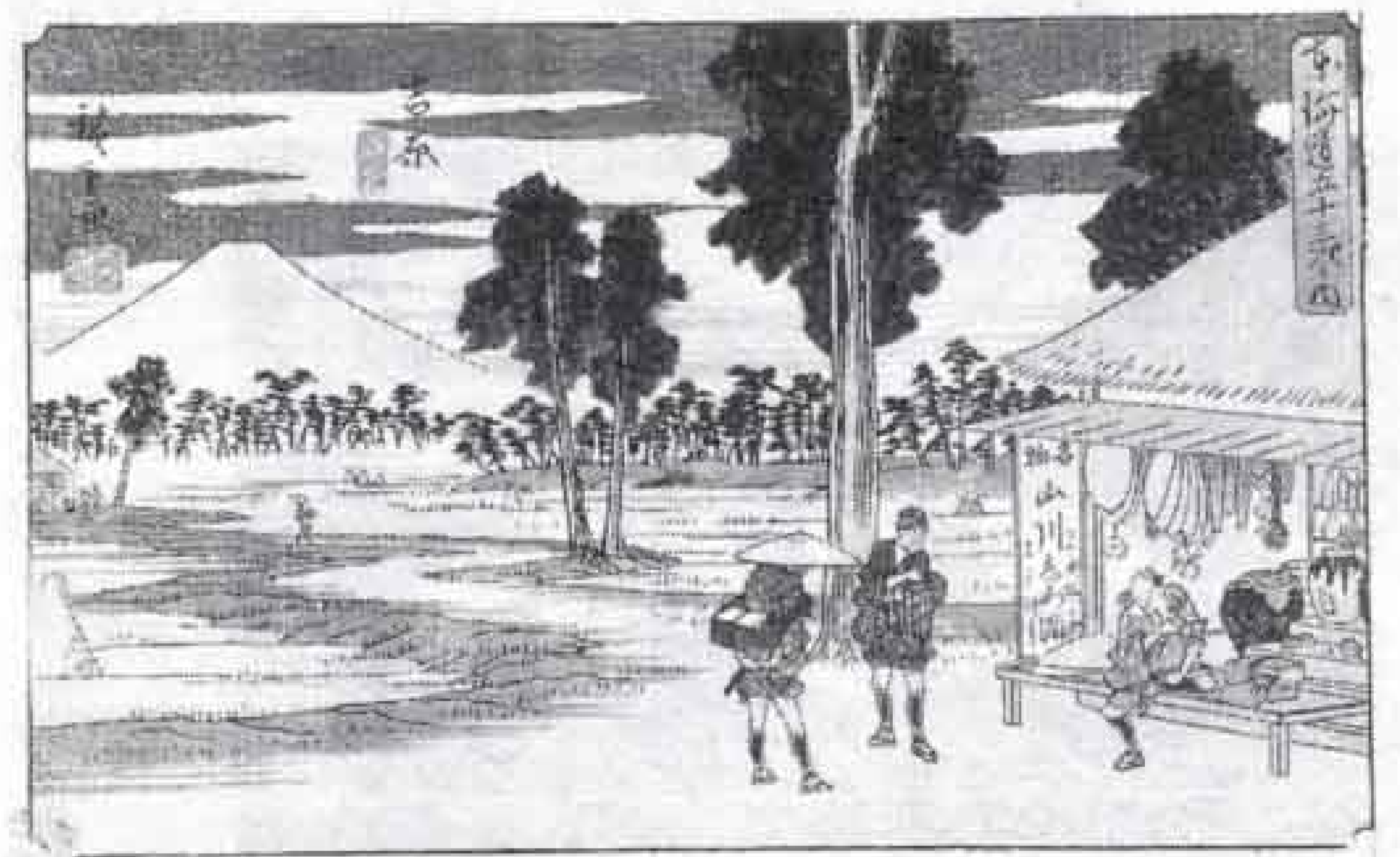
百軒余りの旅籠も

吉原宿は、大宮（富士宮）を通過して甲州（山梨県）へ魚や塩などを運ぶ街道と、十里木を通過して足柄峠や籠坂峠を越える街道の出発点になっていました。

宿場には一定の人馬を置き、物資の輸送をすることが課せられていました。この人馬調達を取り仕切る場所は問屋場と呼ばれ、元吉原宿では三十六人三十六疋、新吉原宿では百人百疋を置くように定められていました。

また、宿泊業務も宿場の重要な機能。大名や幕府の役人など身分の高い人が宿泊する本陣、脇本陣のほか、一般の旅人が利用する旅籠が軒を連ねていました。吉原宿では文化年間（一八〇四〜一八一八年）には百軒余りも旅籠があったようです。これらに加えて、呉服屋、八百屋、酒屋などさまざまな店があり、ネギ雑炊や肥後ずいき（イモガラ）が名物として知られていました。

また、原宿と吉原宿、吉原宿と蒲原宿の間にそれぞれ、柏原と本市場の「問宿」が設けられ、旅人は休憩所として疲れをいやすのに立ち寄りしました。



右：東海道五拾三次之内「吉原」
歌川広重画



左：葛飾北斎画「吉原」

（市立博物館蔵）



●水神付近からの富士川

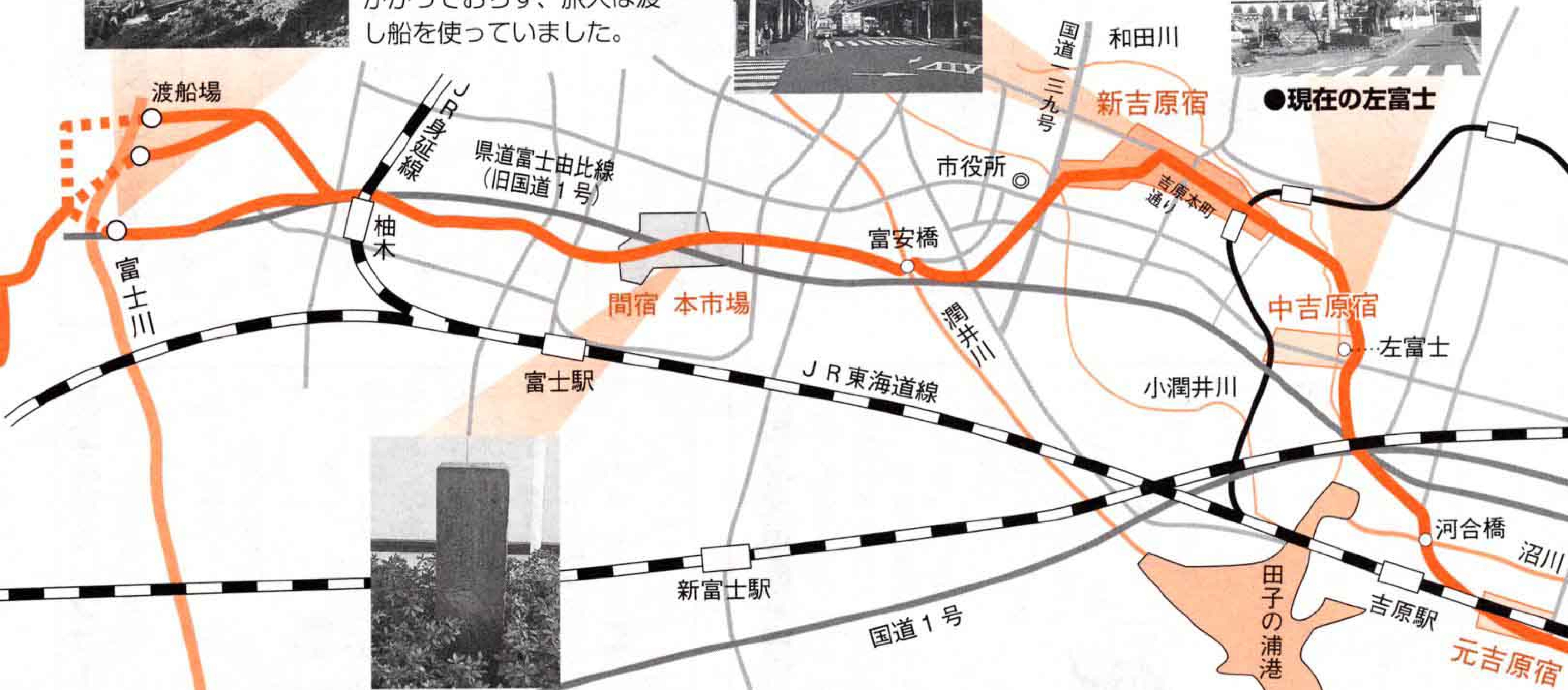
江戸時代、富士川には橋がかかっておらず、旅人は渡し船を使っていました。



●現在の吉原本町通り



●現在の左富士



●鶴芝の碑

問宿「本市場」の名物は白酒。この碑は「鶴の茶屋」と呼ばれていたという茶店の跡に建てられています。

吉原宿・宿場まつり

時代衣装パレード、ステージイベントなどのほか、祇園祭の山車も登場予定。毎月第二土曜日にはナイトバザールと同時にプレイベントも開催中。

とき 十月二十七日(土)

ところ 吉原本町通り

問い合わせ 富士商工会議所
☎五二一〇九九五



吉原宿・宿場まつり
実行委員会

「歴史をつくっていきつかけにしたい」と思っています。これから祭りに向け、地区を挙げて盛り上げていきます。ぜひ遊びに来て、祭りに参加してください。

宿場の郷土資料の展示や紙をテーマにした催しなどふるさとをPRします。宿場の歴史を子どもたちをはじめ、多くの皆さんに知っていただき、私たちのふるさと・吉原宿の新しい歴史をつくっていきつかけにしたいと思っています。これから祭りに向け、地区を挙げて盛り上げていきます。ぜひ遊びに来て、祭りに参加してください。



お祭り



「行ってみよ〜よ、なぞなぞオリエンテーリング」

商店街の周りにあるお地藏さんと三つの神社にある「なぞの文字」を組み合わせたある言葉になります。正解した皆さんにはご利益(プレゼント)があります。

とき 毎月二、十二、二十二日の三日間

ところ 岳南商店街(吉原宿東入口)

問い合わせ 久保田 方
☎五二一〇四七二



岳南商店街会長
久保田 保雄さん
(吉原1)

いるスタンプリーとウォーキングのイベントにも参加しています。三代が仲よく楽しめるにぎやかな街を目指して、四〇〇年祭を盛り上げますので、ぜひ遊びに来てください。

岳南商店街では、オリエンテーリングのほか、祇園祭でのゲーム大会や、七月に地藏寄席などを企画しています。また、県で行って



イベント

東海道五十二次

「吉原宿」を歩く

十人程度のグループで市内の旧東海道を三回にわけて歩きます。また、各ポイントで駿河郷土史研究会が東海道の歴史について説明します。

とき 五月二十日(日)、二十七日(日)、六月三日(日)

ところ 市内柏原から水神の森「富士川渡船」まで

問い合わせ 宮崎 方
☎三六一〇八七二



駿河郷土史研究会の皆さん

人々にとって宿場は商売など仕事の場であり生活の場でもありました。また、所がえなど吉原宿に住んでいた人々にとって多くの苦勞もありました。こういった吉原宿や東海道にまつわる歴史を市内の旧東海道を歩きながら、紹介していきます。郷土を知りきつかけにぜひ参加してください。



ウォーキング。街道案内

富士ふれあいウォーク

富士総合運動公園陸上競技場をスタートとして、新緑の富士山南ろく丸火自然公園を舞台に、10km、20km、40kmの各コースを設定。体力づくりと仲間とのふれあいを楽しんでみませんか。

とき 四月十五日(日) 八時三〇分

ところ 富士総合運動公園陸上競技場

問い合わせ 体育振興課
内線二七二六



旧東海道道標案内板の整備

市内旧東海道の二十一か所へ道しるべを設置するほか、吉原商店街の歩道の十一か所に誘導サインの埋め込み、街道案内の大型看板の設置、富士公民館を起点とした一万歩コース「加島の旧東海道コース」の設置など、旧東海道の歴史的資源を活用した道しるべや案内板を整備します。

問い合わせ 文化振興課
内線二七二二

一万歩コースについては
体育振興課 内線二七二八



東海道四〇〇年祭

キャラクター

「東海道中道しるべえ」



舞台・展示

東海道四〇〇年祭
エントリ-

東海道四〇〇年祭は、県内各地から立ち上がったエントリイベントで構成され、富士市からもお祭り、舞台・展示など多彩なイベントがいくつか開催されます。



「東海道芸能今昔物語」

～時空をこえて今～

弥次・喜多が東海道を旅しながら各地の伝統芸能にふれていくようなステージを上演。富士市民俗芸能連絡協議会に所属する団体のほか、富士市近隣の芸能団体も出演します。

とき 十一月二十五日(日)

ところ ロゼシアター中ホール

問い合わせ 中司 方

☎六〇一八三九八

「広重東海道五十三次」押絵展

歌川広重が描いた東海道五十三次浮世絵を題材に、日本伝統工芸の押絵で東海道を表現します。

とき 十一月中旬

ところ ステーション

プラザFUJII

問い合わせ 渡辺 方

☎五二一四八二三



ミュージカル

「弥次喜多道中夢枕」

東海道にまつわる逸話や物語をテーマに、企画・運営からの市民参加による富士市ならではのオリジナルミュージカルを上演します。

とき 十二月二十四日(月)、二十五日(火)

ところ ロゼシアター中ホール

問い合わせ ロゼシアター

☎六〇一八三九八

新東海道道しるべ人形

包装紙を使ってつくった、新東海道五十三次道しるべ人形を展示。

左富士、鶴の茶屋、曾我物語や竹取物語など富士市の史跡、民話などをパズル式に弥次・喜多が紹介します。

とき 十二月十六日(日)～二十五日(火)

ところ ロゼシアター展示室

問い合わせ 入野 方

☎六二一三八三七

富士市民俗芸能連絡協議会
会長 中司博明さん



(松岡)

実行委員会を中心に、現在の全体のシナリオづくりなどを進めているところです。協議会には十九の団体が加入していますが、これを機会に、それぞれの芸能の継承と市内に眠っている伝統芸能の掘り起こしにつな

げていきたいですね。ぜひ多くの皆さんにふるさとの芸能をごらんになっていただきたいと思います。

やわらぎ会代表
渡辺和枝さん



(伝法)

押絵は、もともになる絵をいくつかの部分に分けて型紙をつくり、その上に綿を乗せ、絹地で包み色をつけて仕上げていく日本の伝統工芸です。展示では広重が描いた県内の宿場の浮世絵を押絵で表現します。押絵

独特の質感を皆さんに感じていただける展示にしていきたいですね。

運営委員長
丸茂湛祥さん



(伝法)

公演に向け、継続して行ってきたロゼシアターでの市民ミュージカルの経験を生かしていききたいと思います。郷土色豊かな内容を楽しんでいただけるような公演にしたいですね。今後出演者の募集など

参加を呼びかけていきます。ふるさとのミュージカルを一緒につくり上げ、未来に残していきたいですね。

多賀紙人形代表
入野多賀子さん



(蓼原)

お菓子の包装紙や新聞紙などをむと独特の風合いが出ます。その紙を使ってつくった弥次・喜多の人形が、富士市にまつわる民話などを紹介する展示にしていきたいと思っています。昔を再現できるような背景や人形も配置していきたいですね。おもしろく、子どもたちにもいろいろな夢を膨らめるきっかけにしてもらえるような展示にしたいですね。

現